

主な開発品

ONO-2540/ENA713D 経皮吸収剤

ONO-2540はアセチルコリンエステラーゼおよびブチリルコリンエステラーゼの阻害作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤です。本剤はアルツハイマー型認知症に深く関与していることが知られているアセチルコリンエステラーゼだけでなく、病態の進行に伴って増えると報告されているブチリルコリンエステラーゼも阻害することから、既存薬が奏効しない患者さんにも効果を期待しています。また、経皮吸収剤であることから介護者が使用状況を容易に確認できるなど利便性の向上が期待できる薬剤です。

国内：アルツハイマー型認知症 フェーズⅢ（ノバルティス ファーマ株式会社と共同開発）

海外：発売中（ノバルティス社）

ONO-7847/MK-0517 注射剤

ONO-7847はニューロキニン1拮抗剤で、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐を対象として開発を進めています。なお、本剤はイメンドカプセル（ONO-7436）/MK-0869を注射剤に改変したものです。

国内：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 フェーズⅢ

海外：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 フェーズⅢ（メルク社）

ONO-5920/YM529 錠剤

ONO-5920/YM529は骨粗鬆症治療剤です。なお、本剤はリカルボン錠の间歇経口製剤です。

国内：骨粗鬆症 フェーズⅢ（アステラス製薬株式会社と共同開発）

ONO-7643/RC-1291 錠剤

ONO-7643は低分子のグレリン様作用薬で、癌性悪液質を対象として開発を進めています。本剤は食欲増進や筋肉増強などの生理作用を有するホルモンであるグレリンと同様の作用を持つ低分子化合物であり、癌の進行に伴い食欲不振、体脂肪量や筋肉量の低下を特徴とする全身消耗状態（癌性悪液質）にある患者さんのQOLを改善する画期的な薬剤になるものと期待しております。

国内：癌性悪液質 フェーズⅠ

海外（米国など）：癌性悪液質 フェーズⅡ（ヘルシン社）

ONO-5334 錠剤

ONO-5334はカテプシンK阻害剤で、骨粗鬆症を対象として開発を進めています。ビスホスフォネート製剤と異なり、骨形成に影響を及ぼさず、骨吸収のみを抑制する新しい作用メカニズムの骨粗鬆症治療剤です。

国内：骨粗鬆症 フェーズⅠ

海外（欧州）：骨粗鬆症 フェーズⅡ

ONO-8539 錠剤

ONO-8539はプロスタグランジンE2の受容体のひとつであるEP1受容体の選択的な拮抗剤で、過活動膀胱を対象として開発を進めています。既存の抗コリン剤がその作用機序から使用制限されている緑内障や、前立腺肥大症などの下部尿路閉塞を伴う患者者に対しても使用可能な薬剤になると期待しています。

国内：過活動膀胱 フェーズⅠ

海外（欧州）：過活動膀胱 フェーズⅡ

ONO-4641 錠剤

ONO-4641はSIP（スフィンゴシン-1-リン酸）受容体作用薬で、多発性硬化症を対象として開発を進めています。本剤は血中のリンパ球をリンパ節にとどめ、血中のリンパ球数を減少させる作用を持つ低分子化合物であり、その結果として病巣へのリンパ球浸潤を抑制することで、難病とされる多発性硬化症などの自己免疫疾患の画期的な治療薬になるものと期待しております。

国内：多発性硬化症 フェーズⅠ

海外（米国）：多発性硬化症 フェーズⅠ

ONO-4538/MDX-1106 注射剤

ONO-4538は完全ヒト型抗PD-1抗体で、癌などを対象として開発を進めています。PD-1は、リンパ球の表面にある受容体の一種で、生体において活性化したリンパ球を沈静化させるシステム(負のシグナル)に関与しています。癌細胞は、このシステムを利用して免疫反応から逃れているという研究成果が報告されています。ONO-4538は、リンパ球を沈静化させるPD-1の働きを抑制することで、癌細胞やウイルスを異物と認識してこれを排除する免疫反応を増進するものと期待しております。

国内：癌 フェーズⅠ

海外(米国)：癌 フェーズⅠ (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

海外(米国)：C型肝炎 フェーズⅠ (プリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

ONO-3849 注射剤

ONO-3849は末梢の μ オピオイド受容体拮抗薬で、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘を対象に開発を進めています。オピオイド鎮痛薬は癌性疼痛に対して主に使用されているのですが、副作用として難治性の便秘を伴います。本剤はオピオイド鎮痛薬の鎮痛効果に影響を及ぼすことなく、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性の便秘を改善する薬剤です。

国内：オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘 フェーズⅠ

海外：発売中(ワイス社)

ONO-7746 カプセル

ONO-7746は体内において血小板の産生を促進する造血因子であるトロンボポエチンの受容体を活性化することにより血小板を増加させる経口投与が可能な低分子化合物です。血小板減少を伴う種々疾患の出血リスクの軽減に有用な薬剤として、また血小板輸血に伴う感染リスクという課題を克服する薬剤として開発できるものと期待しています。

海外(米国)：血小板減少症 フェーズⅠ

■ 効能追加

イメンドカプセル

国内：癌化学療法に伴う悪心・嘔吐(小児) フェーズⅢ

グラクティブ錠

国内：2型糖尿病(α -グルコシダーゼ阻害剤との併用療法) フェーズⅢ (万有製薬株式会社と共同開発)

2型糖尿病(インスリン製剤との併用療法) フェーズⅢ (万有製薬株式会社と共同開発)

注射用オノアクト

国内：マルチスライス CT による冠動脈造影能の改善 フェーズⅢ

注射用エラスポール

国内：市中肺炎に伴う急性呼吸不全 フェーズⅡ